

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	地域の方々とグランドゴルフやゲートボール等にも参加できるようにしていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	コミュニティセンターで行っている老人会のカラオケ教室をホームのカラオケ機器を利用してホームの利用者と一緒に歌を楽しんでもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者はもとより職員も外部評価の意義を理解してきており、自主的に研修に参加したり、評判のいい施設の見学に行ってホームの質の改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見や要望を速やかに実効したり、改善してサービスの向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は認知症キャラバンメイトの一員となっているため包括支援センターの要請に協力して研修を受けている。また相談や報告等で連絡を取り合っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している		○	権利擁護等の研修には参加している。必要な人が入居してきた時のために活用できるようにしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で虐待の防止について話し合いをし、利用者は尊厳を持って接することが必要であると認識し虐待の防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ前に家族等から不安や疑問に思っていることを話してもらい十分な説明を行い納得して契約を結んでいる。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは毎日の会話で意見等があった場合は聞いて、それを運営の改善に役立てている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会のたびや電話で暮らしぶりや健康状態等の報告を詳しく説明している。金銭管理は預かり金が不足したとき出納帳を見てもらい入金サインをもらっている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在の所担当者会議や面会時に利用者からの意見等があれば気楽に管理者や職員に話せるように対応している。改善できる意見等であれば速やかに運営に反映している。外部評価のアンケートで外部者には自由に意見等を出してもらうように伝えている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の介護の中で自由に意見交換できる雰囲気をつくり、より良いケアに結びつく提案はすぐに反映し実行している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状態の変化に対応して不手際が起きないように柔軟に職員の確保を行っている。職員会議や避難訓練等にはなるべく多数の職員が参加できるように努めている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員と接することが利用者にとって安心して落ち着ける場所であることを職員にも理解してもらい、なるべく離職がないように働きやすい労働条件等に配慮し長期の就業に努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○	いつ、どこで、どんな研修があるか分からないため計画は立てていないが職員が希望する研修や職員に的確な研修があれば受ける機会を与えている。最近では職員が自主的に他のGHの視察等を計画し当ホームの運営に反映している。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている		管理者や職員は電話や訪問等で交流し、相互の活動を話し合い、優れていることや取り入れたいことはサービスの質の向上のために反映している。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる		職員のストレスを軽減するために労働条件を職員の意見で改善して働きやすい環境作りに取り組んでいる。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		定期的に職員会議を行い、サービスの質の向上につながる内容の話し、それに各自が向上心を持って意見を言い合える雰囲気を作っている。相互が感謝の気持ちを持つことまたそれを口に出して確かめ合うことも大切だと思う。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		本人が何に苛立ち、悩み、不安、困っているのか理解するには、本人の話をゆっくり、よく聞くことが一番大切なことで、信頼関係をつくり、安心されるように、努めて受け止めるように対応している。特に散歩の時や夜勤の時ゆっくり話を聞くようにしている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		家族の話をよく聴いて、家族が利用に至るまでの不安等は何でも話せるような雰囲気をつくる努力をしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族がGHに入居した方がいいか迷っているとき、本人とも面会して楽しみにしているデイサービスを多く取り入れ自宅での生活を勧めたことがある。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族がGHの生活に馴染むか慎重なためまず体験入居をし、雰囲気を味わって徐々に馴染んでもらうよう提案した。		
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	尊厳の気持ちを持って接することを理念としているため、人生経験の長い方から教えられたり、学んだりして一緒に支え合う関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と協力し合いながら、本人を支えていけるように交流を密にし信頼関係を保つように努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の関係をよく知り、入居してもその関係がさらに良くなるように会話の中に取り入れたり、電話をして頂いたり支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームに友人、知人等が訪問したときはお茶の接待や環境を整え家庭に居るときのよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	話の合う利用者はテーブルの座席を近くにしたり、ソファに座る位置を誘導してより良い関係が保てるように環境を整えるように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	例えば亡くなった利用者の家族が懐かしんで訪問されたときは本人のよき思い出を話して懐かしむ対応をしたり、手紙、電話等で付き合いを切らないで持続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意のままに暮らせるように希望や意向を把握し、環境作りに努めている。困難な方は、本人の意向を尋ねて対応している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	モニタリングの段階で今までの生活歴等を聴いたり、面会時に聴いたりして、本人が生きて来られた暮らしになるべく近い環境作りに努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日一緒に生活していると一人一人の有する力等が判断できるのでその本人に合った暮らしを提供できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための介護計画を作成するために本人や家族に要望や意見を聞いたり、看護師や介護者からの意見も取り入れている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直し以前に入院などの変化が生じた場合は、退院後の身体の状態に合わせた計画を話し合いのもと作成した。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を日々行い、全員が目を通しカンファレンスを行い介護計画の見直しに役立てている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望等にはすべて応じるられるように心がけ、柔軟な支援ができています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	すべての地域活動の働きかけには協力している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている		○	地域の他のケアマネジャーや事業者と相談したり、話あったりはしているが、今後本人の意向や必要性があれば他のサービスを利用するために支援していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している		○	今まで権利擁護の必要な方が居なかったため地域包括支援センターとケアマネジメント等について協働したことは無いが、必要時には努めていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今現在当ホームのかかりつけ医ではなく昔から信頼している病院の受診と薬を服用死体という希望の利用者がいて、本人の納得いく医療を受けられように対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>近くの精神科の専門医に必要時は受診し、職員が気軽に相談したり専門的な助言を受けて利用者が安心して生活できるように対応している。</p>	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>日常の健康管理を受け持っている看護師に医療的なことはすべて相談し、利用者が健康を維持できるように支援している。</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>利用者が入院したときは、看護職員や管理者、職員が見舞いに行きに行っている。病院関係者と情報を交換し、入院中や退院後の状態を把握するのに役立っている。</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>かかりつけ医を含めた医療関係者と家族、ホーム職員等でカンファレンスを開き、終末期のあり方等の話し合い、全員が方針を共有した。</p>	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>終末期までより良く過ごせるために、かかりつけ医の指示のもと医療と介護がチーム一丸となって自分の家族を見守るよう支援した。</p>	
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>○</p>	<p>病院に入院以外は別の場所に住み替えの経験がないが、将来あるときはケア関係者間で十分な情報交換を行いたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊厳の気持ちを持って接することを理念としているため、言葉による虐待もないように努めている。個人情報の取り扱いも必要時の使用の同意を得ている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人一人の力を理解し、本人の希望が何なのか察知しながら働きかけ、本人に分かりやすく説明し納得して暮らせるように支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今日は散歩に行きたい、体操はしたくない、トランプがしたい、テレビが見たいなど本人の希望に添って支援できるように努めている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入浴後はお化粧したり、かかりつけ医が往診に来るからおしゃれな服に着替えたり、行きつけの美容室に行ったり自由に行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	どの人も食べることが一番楽しみであるため、献立や彩り、味付けなど細心の注意を払い美味しく食べられるように工夫している。(歯が悪い人は細かく刻んだり、柔らかくしたり、食が細かい人は少なめ、薄味など) 利用者には下ごしらえや片付け等を手伝ってもらっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	家族が持ってきたおやつや飲み物等は各自、自室にて楽しみにしている。時々梅酒等を提供して喜んでもらっている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	やむを得ずリハビリパンツを使用している人が一人居るがなるべくおむつ使用を減らすよう努めている。認知症による頻回な排泄は本人が落ち着いて過ごせるようにレク活動や好きな作業に集中できる環境作りに努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日置きには入浴を楽しんでいる。高齢になると入浴も面倒で拒否される方がいるが、衛生面で清潔を保持するために巧みな誘導により入浴してもらっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないように昼間はなるべく長時間の昼寝は避け、夜に熟睡できるような支援をしている。防犯システムを取り入れ夜でも安心して眠れるように対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事の役割や新聞拝読、得意な計算、書写、折り紙、袋たたみ、散歩、テレビ観戦、花見等の遠出など一人一人の楽しみを把握し、楽しみや気晴らしのできる支援をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方は自分で買い物して欲しい物を買っている。家族と外出したときは本人の好きな物、欲しい物を買って来ている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望に添って娘の家に行ったり、買い物をしたり、外食したりして外出している。毎日近くの公園に散歩で外に出てベンチに座って一人一人の昔の思い出等の話を聞きながらコミュニケーションを図っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	それぞれ法事、観光、結婚式、墓参り、食事など思い思いの場所に家族とともに出かけている。	○	機会があれば四季折々に利用者と家族一緒に花見等を計画して出かけた。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話できる能力のある方は自分から電話したり、手紙を書いてポストに投函したりしている。耳が遠くて電話が通じない利用者は職員が代わりに伝達している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	本人の馴染みの人達が自由に訪問でき、職員は歓迎の対応をし居心地のよい時間を過ごせる雰囲気をつくっている		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で時々身体拘束について取り上げ、今現在は身体拘束のないケアが行われていることを確認している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	すべての居室、トイレ、玄関等の鍵をかけることがないケアに取り組んでいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間は巡視、昼間は職員の見守りを徹底するように配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険と思われる物の排除は、一人一人の状態を把握し、事故を未然に防げるように取り組んでいる。(漂白剤や掃除用溶液等)		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒しそうな人は立ち上がりや移動時の対応に配慮し、早食いや老化により誤飲しそうな人は声かけ見守りをし、徘徊等で脱走する人は目を離さず見守り強化をし、火災については業者に火災予防の説明を受け予防に努め、誤薬を起ささないよう対応を徹底し安全な服投与に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	包括支援センターや消防署等が主催する応急手当や初期対応の訓練に職員が自主的に参加したり、ミーティングの中で取り組んだりしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害に対しては定期的に避難訓練や防災設備業者による初期消火等の説明を受けている。地域周辺住民の災害時避難協力隊が結成されており協力を得られる組織ができています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている		○	リスクの起こる可能性の多い方の家族には話し合っているが、今後は誰にも起こりえるリスクについて、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策の話し合いをしていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人一人の体調の変化を毎朝のバイタルサインチェックや食欲、顔色等で変化や異常を発見し、職員と情報を共有し、対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の服薬の効能や用量等を理解し、服薬管理を徹底し服薬の支援している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘対応のため毎日体操したり、散歩して身体を動かすようにしたり、植物繊維を含んだ野菜や豆類を多く取り入れた献立や水分を多く摂取できるように取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後には、義歯を外して口腔ケアを行い、義歯は洗浄剤を入れた水の中に保管しておく支援をして清潔保持に努めている。自分の歯がある人は毎食後歯磨きをする習慣が身につけていて自主的に行っている。忘れていたようなときは職員が声かけの支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事の摂取する量を把握し、野菜、魚中心で多品目の食材を取り入れ、栄養バランスを考慮した献立を提供している。水分補給はなるべく多量に摂取できるように夏場は個人用のペットボトルを常備しいつでも摂取できるように支援している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する予防や対策についてミーティングで取り上げたり、感染症予防の張り紙をして予防に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理台や器具の衛生管理は徹底しており、鮮魚や野菜は毎日の買い物で新しい食材を選んでおり、家庭菜園で作った無農薬の新鮮な野菜を使用して安全に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まで段差がなくスロープと手すりがあり、足の不自由な人でも安心して出入りができるようにしてある。玄関に通じる通路には四季ごとに咲く花々を植え季節を感じ、楽しめるように配慮している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は窓が高いため圧迫感がなく明るく居心地の良い作りになっている。ホールの窓からは野菜や花が見え季節を感じとることができるように工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で居間のソファで会話したり、テレビを見たりしている居場所の工夫をしている	ダイニングテーブルで一人で作業したり、気の合った利用者同士で居間のソファで会話したり、テレビを見たりしている居場所がある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	冬は自室にこたつを置き家族と談笑したり、姉妹でベットを並べて寝室にしたり、仏壇や遺影を置いて偲んだりして本人の居心地の良いように過ごしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除時や暑い時は窓を開け換気や風の通りをよくするように配慮している。室温の高低や湿度等にも配慮し過ごしやすい室温になるように職員が支援している。ポータブルトイレを使用する利用者の部屋はこまめに戸を開けて空気の入換えをしたり芳香剤で気になる匂いを消すように配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールや廊下など移動を要する箇所には手すりが設置しており、歩行が不安定な人も伝って歩くことができるようにしてある。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自室には自分の表札があり、洗面所やトイレの表示が掲げられている。	○	認知症の進行がある利用者は他の部屋に入ってしまうことがあるため見守りと誘導を強化していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダが広く、職員と利用者が一緒に洗濯物を干したり、取り入れることができる。家庭菜園の好きな入居者が草取りや種まき、植物の手入れ等の世話を進んで行っている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

健康維持のためにバイタルサインチェックの後テレビ体操を40分位かけて毎日行っている。その後ホームのテーマソングや元気に過ごすための替え歌や季節に応じた歌を歌って和やかな気分を作っている。天気の良い日はほとんど毎日近隣公園に歩行訓練と気分転換を兼ね散歩に出かけたり、秋が深まると少し遠出をして菊の観賞に学校や紅葉狩りに里山の散策等も行っている。地区の高齢者クラブの方々が月に1回は訪れてみんなと一緒にカラオケ教室を開催して和気あいあいと楽しんで頂いている。隣にある保育園からマーチングの招待や児童館からは、餅つき大会や敬老会の催しを開いて頂いたり地域住民との関わりも大切にしている。地域の方々の災害対策協力員も積極的に参加して頂き非常時の対策として大変心強く思っている。